

2026年度 花さきデイサービス事業計画書

<事業の種類>

介護保険法による通所介護事業

介護保険法による介護予防通所介護事業（合計定員20名）

<運営方針>

在宅の要支援者・要介護者に対して、可能な限り慣れ親しんだ地域で生き生きと生活できるように支援する。

また利用者・家族の意見に耳を傾け「個」を大切に、自立・自己実現を目指す。
地域福祉の充実に努める為に地域包括支援センターを中心に、他事業所と連携を図る。

<事業計画> SWOT分析

（1）強み

1. 職員の定着率が高く、安定したサービス提供が可能である。
2. 職員間の情報共有が円滑で、利用者の要望に柔軟に対応できる。
3. 法人内の福祉サービスが充実しており、利用者の状態変化に応じた連携が可能である。
4. 福崎町より福祉避難所の指定を受けており、地域からの信頼が高い。
5. 家族から生活歴を丁寧に聞き取り、個別の認知症ケアを実践できている。
6. ICT 導入により事務作業が効率化され、利用者支援に充てる時間が増加している。
7. 大浴場・個浴・椅子浴の3種類の浴槽を備え、身体状況に応じた入浴が可能である。
8. 近隣に社会資源が多く、地域との連携が取りやすい。

（2）機会

1. 毎月の事業所訪問により、居宅介護支援事業所からの新規紹介が継続的にある。
2. 西治区、新町区の2か所のミニデイサービスへの参加により、地域住民との顔なじみ関係が構築されている。
3. 学生向け福祉講座への参加により、若年層への認知度向上が期待できる。
4. 認知症カフェ「にんかふえ楽笑」の開催により、地域住民の理解促進と施設認知につながっている。
5. SNS を活用した情報発信により、法人活動を広く知ってもらえる環境が整っている。

（3）弱み

1. 常勤職員が多く、人件費率が高い。
2. 開設から10年以上が経過し、修繕が必要な箇所が増えている。
3. サービス変更・死亡等により、前年度より利用終了者が増加している。
4. SNS の地域住民・ケアマネ登録数が少なく、情報発信が届きにくい。
5. 新規の居宅介護支援事業所の開拓が進んでいない。

（4）脅威

1. 人件費・光熱水費・物価の高騰により、運営コストが増加している。

2. 福崎町内に通所介護事業所が 19 か所あり、競争が激しい。
3. 福崎町役場との連絡調整が不足しており、福祉避難所運営に不安がある。
4. 福祉業界全体の人材不足により、求人をしていても応募が集まりにくい。

<事業計画>

- ・利用者の個別ニーズに対応した処遇を行うことにより、自立に向けた支援を行う。
 - ①入浴 ー 入浴により筋肉や関節の緊張を和らげ、気分のリラックスにつなげる。また入浴することで、清潔の保持や爽快感を得る。
 - ②排泄 ー 排泄に障害を持っておられる方に対して、安心安全な介助を提供しトイレでの排泄を目指す。
 - ③食事 ー 利用者・職員が共同でおやつの献立を考えるなど、食への関心を持つ。嗜好を随時確認しながら食事量の確保に努める。
 - ④リハビリ ー 日常生活に必要な生活機能を維持するために、個々のニーズに合わせたプログラムを作成し、在宅生活の継続につなげると共に、家族の介護負担を軽減する。
 - ⑤レクリエーション ー 個人活動、集団活動を実施することにより、デイサービス利用の動機付けを行い社会参加への援助を行う。

・地域との連携

- ① 西治区区長、民生委員宅を訪問し情報の発信をおこなう
- ② 地区行事に参加し地域住民と顔の見える関係づくりをおこなう

・介護支援専門員との連携

- ①居宅介護支援事業所に赴き顔の見える営業を月 1 回継続して行う
- ②稼働率の維持の為、空き情報を発信する（毎月 2 回）

<年間行事>

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 4 月・・・花見 | 1 0 月・・・秋祭り、運動会、ヤマサ外出 |
| 5 月・・・鯉のぼり見学 | 1 1 月・・・紅葉ドライブ |
| 6 月・・・アジサイ見学 | 1 2 月・・・クリスマス会、忘年会 |
| 7 月・・・七夕、沙羅の花見学 | 1 月・・・初詣、新年会 |
| 8 月・・・納涼祭 | 2 月・・・節分、観梅、抹茶の日 |
| 9 月・・・敬老会、お茶会 | 3 月・・・菜の花外出 |
- ＊レクリエーションや機能訓練はマスク着用、社会距離を保ち実施する

<日課>

時 間	項 目	内 容
8 : 0 0	迎え出発	検温、体温チェック、手指消毒
9 : 0 0	健康チェック	到着後手洗い、うがい、体温・脈拍・血圧の測定
9 : 1 5	入 浴	個浴・普通浴・椅子浴の提供
	学習療法等	計算問題・漢字問題などの提供
	個別機能訓練	希望される利用者の状態にあわせ、日常生活に必要な機能訓練の実施
1 1 : 4 0	口のリハビリ	口腔マッサージや早口言葉等の実施
1 1 : 5 5	新聞読み	地域の新聞の1面など利用者の関心のある記事の紹介。
1 2 : 0 0	昼 食	季節感のある食事の提供
1 3 : 0 0	自由時間 個別レク	休息や手作業・作品づくりなど個々の時間 ＊検温実施
1 4 : 0 0	レクリエーション	集団ゲーム・歌体操等・季節行事などの実施
1 4 : 4 5	機能訓練	①歩行練習・起立訓練の実施 ②各個人にあった手作業などの実施
1 5 : 0 0	ティータイム	コーヒー、紅茶等の提供
1 5 : 3 0	帰りの準備	利用者の帰り支度の手伝い、連絡事項の伝達
1 6 : 0 0	健康体操	歌と体操を組み合わせた体操を実施し、転倒予防を図る。
1 6 : 1 5	送り出発	

<年間目標>

利用人員：通所介護・総合事業

平均利用人員 18 人/日

(2026 年(令和 8 年) 1 月現在

平均利用人員 16.1 人/日)

目標設定の根拠

2025 年度(令和 7 年度)は、新規利用者 14 名、サービス利用終了者 15 名となり、利用終了者が新規利用者数を上回った。その結果、目標としていた平均利用人員 18 名を達成できなかった。

主な要因

①サービス利用終了者が多かったこと

②下半期の新規利用者紹介件数が大幅に減少したこと

これらの課題に対し、居宅介護支援事業所への訪問や空床情報の提供、在宅生活継続のための支援を行ったが、十分な成果にはつながらなかった。

目標達成に向けた基本方針

1. 居宅介護支援事業所との連携強化と新規紹介の創出

- ・最新の空床情報を定期的に提供し、紹介機会を逃さない体制を整える。
- ・ケアマネとの関係性を深め、相談しやすい事業所としての信頼を高める。

2. 職員全員による法人サービス理解と切れ目のない支援体制の構築

・全職員が法人サービスを理解し、状態変化に応じた適切なサービス提案ができるようにする。

- ・法人内サービスとの連携を強化し、利用者の生活が途切れない支援を実現する。

3. 個別カンファレンスの定期開催による在宅生活の継続支援

- ・利用者の困りごとを早期に把握し、職員・家族・ケアマネと共有する。
- ・入院やサービス中断につながるリスクを事前に予防する。

4. 認知症カフェ「にんかふえ楽笑」の継続開催による地域との関係構築

- ・地域住民・家族・専門職との交流を深め、地域に根ざした事業所としての認知度を高める。
- ・相談しやすい環境を整え、将来的な利用につながる関係性を育てる。

目標達成のための具体策

① 地域連携強化と新規利用者紹介の仕組みづくり

- ・毎月の事業所訪問、ミニデイ参加、認知症カフェを活用し、地域住民・ケアマネとの関係性を強化する。
- ・チラシを作成し自治会回覧や掲示板など活用し情報発信力を高める。
- ・新規の居宅介護支援事業所への訪問を強化し、紹介ルートを拡大する。

② 個別ケアの質向上の強化

- ・認知症ケアの個別対応を標準化し、職員間で共有する。
- ・法人内サービスとの連携を活かし、切れ目のないサービス提供を強化する。
- ・ICT 導入で生まれた時間を機能訓練や個別支援に活かす。

③ 職員育成と組織力の強化

- ・職員の知識向上のため、研修体系を整備し、法人内研修・外部研修を計画的に実施する。
- ・朝礼後に個別ケア検討会を開催し、情報共有とケアの統一を図る。
- ・定着率の高さを採用 PR に活用し、人材不足の中でも職員を確保する。

④ コスト管理と施設環境の整備

- ・修繕計画を立て、10 年経過した施設の安全性・快適性を維持する。
- ・光熱費・物価高騰に対応するため、節電・効率化などの啓蒙を図る